

第2回 広島西飛行場跡地活用検討会 議事要旨

1 検討会名称

第2回広島西飛行場跡地活用検討会

2 開催日時

平成24年12月21日（金）午後2時～午後3時55分

3 開催場所

アステールプラザ 4階 大会議室A・B
（広島市中区加古町4番17号）

4 出席者

構成員10人中9人出席（山田委員欠席）

（参考）事務局

広島県：地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議題

跡地活用のための基本的な考え方について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

4人

8 検討会資料名

次第

名簿

資料 広島西飛行場跡地活用検討会の進め方について

参考資料1 広島西飛行場跡地の活用検討における関連計画

参考資料2 隣接事業者等の意向

参考事例

補足資料 観音新町地区における造成経緯

9 各出席者の発言の要旨

事務局

それでは、第2回広島西飛行場跡地活用検討会を開会する。本日は山田委員が欠席である。

戸田座長

本日は、前回に引き続き、「跡地活用のための基本的な考え方について」を議題としている。

まず、前回指摘のあった本検討会の進め方について、事務局から資料が提出されている。説明をお願いする。

事務局

(「資料 広島西飛行場跡地活用検討会の進め方について」に沿って説明)

戸田座長

「跡地活用に当たっての基本的な考え方」について、若干私から補足する。

前回、本検討会の進め方について質問をいただいた。限られた期間で集中的に検討するためには、プロセス管理が重要である。可能な限り手戻りなく進めたい。そこで、今回は「基本的な考え方」、その大きな方向性について議論をいただきたいと考えている。

「基本的な考え方」とは、例えば行政等の計画において、大まかな方向付けとなる構想と、その構想に基づく基本計画、次に実施計画を策定し、更に事業計画を策定するという段階的な構成があるが、念頭に置いているのは大まかな方向付けであり、構想又は基本計画に関わる部分である。

具体的には、例えばこの地域において、経済・社会・環境のバランスをどのように取っていくかとか、にぎわいとやすらぎのバランスをどのように取っていくかなど、大きな時代の潮流、経済・社会のグローバル化や少子高齢化など我々を取り巻く状況を見据えつつ、この土地を取り巻く空間的な広がり、また近接した地域の暮らしや社会を考えながら、議論をいただきたい。

実現可能性も念頭に置かなければならないが、今日のところは、制約条件等は少しおいて、大きな視点で議論をいただきたい。

では、進め方について質問をお受けしたい。中山委員、いかがか。

中山委員

前回私が言ったのは、広島市が取りまとめた3つの案以外の機能について、跡地の地域特性からどのような障害があるのか、なぜそれを案に入れないのかも整理していく必要があるということだ。

座長の言うように、限られた時間の中で合理的に話を進め一定の方向性を出すためには、積み重ねが重要であり、マクロ的な視点などを入れながら、きっちり整理していかなければならない。

今回の進め方では、そういう整理もできると思うので、進め方の中で積み上げていけばよいと思う。

戸田座長

この進め方でよろしいか。

(発言なし)

戸田座長

それでは、先に進めさせていただきます。

次は、本日の議題そのものに関連した資料である。前回の検討会における意見を踏まえ、事務局で参考資料を作成している。説明をお願いします。

事務局

(参考資料1・2、参考事例、補足資料に沿って説明)

戸田座長

それでは、参考資料1・2、参考事例等について質問を受けたい。

松浦(靖)委員

制約条件の1つだと思うが、現在のヘリポートの位置は最適なのか。何かの条件があつてこの位置なのか。突端の方が、離着陸するにも良い気がするし、跡地の活用ももっと有効に考えられる気がする。既に進んでいるのであれば止められないが、例えば、時間軸をもう少し長くとらえ、建替え等のときに突端に移すとか、そういう時間軸もあつてよいのではないか。

ヘリポートの位置に関する条件を確認したい。

事務局

広島ヘリポートの位置については、跡地の南側はマリーナホップとの相乗効果が期待される土地であること、(予定地ならば)既存の広島西飛行場の基幹施設が利用できること、また、広島南道路の工事の工程との関係があつたと聞いている。

松浦(靖)委員

今回の検討でも、それは所与の条件としてスタートするのか。

事務局

そうだ。

橋川委員

地元としても、今はとりあえず既存の施設を使うということで承諾しているが、将来的には、突端にもっていてもらった方が、騒音の問題などいろいろな面でメリットが大きいという意見が多い。

災害拠点として活用するのであれば、陸路がつぶれた場合には海上輸送が重要になるし、ヘリポートが海側にあつた方が輸送態勢も整えられるのではないか。

秋山委員

私は、現在のヘリポートの位置は絶対に駄目だと再三お願いしたが、これは決定事項だということで納得した。将来そのようなことをやってもよいという考えがあるのであれば、今、南側の方へやってもらった方が余程よいのではないか。

戸田座長

ヘリポートの位置を見直す余地があるかどうか。また、これを前提条件として検討を進めるのかどうかという質問である。これに関連して、本日欠席の山田委員から意見をいただいている。事務局から紹介してほしい。

事務局

「ヘリポートについて。現行の整備計画（敷地面積）の拡大については検討の余地はあるのか。例えば広域防災機能を重視した場合、県警・市消防局・企業などのヘリコプター15機分に加えて県ドクターヘリ配備分、更に災害時などの緊急対応に8haではそもそも不十分ではないか。」

という意見をいただいている。

戸田座長

山田委員からは、拡充の余地はあるのかという指摘である。いずれにしても、ヘリポートの位置について、検討の前提条件とするかどうかをもう一度確認したい。

事務局

前回の会議でも答えたが、既に整備をしており、この位置はありき、で考えていただきたい。

山田委員の指摘については、跡地の利用の仕方によって、例えばヘリポートの近辺に公園等の少し広いスペースがあれば、対応できるのではないかと考えている。

戸田座長

緊急時の対応として代替的に使えるような土地を検討することは可能であるということか。

事務局

そういう利用の仕方もあるのではないかと考えている。

戸田座長

ヘリポートについてはよろしいか。もう事業が進んでいるということであり、そのように了承してください。その下で意見交換、以下の検討を進める。

ほかに質問はないか。

それでは私から。参考資料2の三菱重工^{びし}さんの意見で、「西飛行場跡地利用において、現在の弊社保有土地の有効利用について、必要であれば可能な限り協力させていただきます」とあるが、それは都市計画道路のことか。

事務局

具体的にどこということは何っていない。周辺にも三菱重工さんの所有地があるので、都市計画道路のことではないのではないかと考える。

戸田座長

山田委員から関連する意見がある。事務局から紹介してほしい。

事務局

「検討対象地は40haであるが、周辺の道路環境の改善効果や商業施設のにぎわい効果などとは連動するため、観音新町地域全体の一体的な土地利用（上位計画での位置付けの確認）も考慮すべきである。」

という意見をいただいている。

戸田座長

三菱重工さんの土地も含めてもう少し大きな広がりをもって検討してはどうかという提案である。

福田委員

都市計画道路はとなると想定すればよいのか。

事務局

この都市計画道路は、現在のところ整備の見込みがあるわけではない。

戸田座長

都市計画道路の見直しの検討対象にもなっていないのか。

事務局

以前広島市が行った都市計画道路の見直しの対象には含まれているが、見直しの結果、存続という判断をしたと聞いている。

戸田座長

これを制約条件と考えるのか、それとも廃止や移設も考えられるのか。路線が決まっていると、それが制約になってしまう。その辺りはどうか。

事務局

この整備は前提にはならないので、柔軟に考えていただいてよいと思う。

西岡委員

都市計画道路があるということは、いずれ整備するという意思表示である。隣接する大規模な用地の活用を検討するということになると、この扱いが大きな決定要因になる。そういう意味から言うと、これを前提として整備するとどうなるのか、また、他の整備方法、具体的には現況のう回している道路を機能向上させるといった案も検討してみたい。その結果として、最も合理的な道路整備の案ができればと思う。

戸田座長

柔軟な検討が可能であるということだ。しかし、「隣接事業者等の意向」を見ると、アクセスが非常に大事であるという指摘は、共通の意見として出されている。

橋川委員

都市計画法に基づいて都市計画（道路）が決定されているということは、実行されるものと（思っている）。ただ、今は財政面でできないということだと思っている。

しかし、アクセスを考えたら、これはもう避けて通れない問題である。う回路を別に考えるという意見もあると思うが、この道が一番良いと思っている。

戸田座長

質問がなければ、今日は制約条件等については主題としないという了承をいただいているので、考え方、方向性に移りたい。

「跡地活用のための基本的な考え方」について意見を賜りたい。

橋川委員

市が考えている3本柱の中にスポーツがあるが、現在、市長も県知事も、サッカースタジアムを前向きに考えているようである。

スポーツ施設として、ドームの付いた球場が近辺にないので、地元としては良い案ではないかと思っている。

事務局

サッカースタジアムについては、これから、建設場所を含めて、様々な課題を関係者で協議していこうという段階なので、候補地として考えられるのではないかという意見として承る。

戸田座長

前回資料の「大規模未利用地への都市機能配置案」を手元に置きながら、意見をいただきたい。ここでは、当該地において「スポーツ・レクリエーション機能」、「広域防災機能」、「新たな雇用を創出する機能」、3つの機能の配置が考えられるという検討結果が出されている。

また、本日の資料では、その都市機能の観点と合わせて、都市の将来像などのマクロ的な観点、隣接事業者等のヒアリング結果などのミクロ的な観点を踏まえて検討してはどうかという事務局からの資料提出があった。これらを総合的に勘案して、大きな方向性についての提案をいただきたい。

山田委員からの意見を紹介してほしい。

事務局

「将来的な波及効果を常に視野に置くことはもちろんであるが、以下2点に留意すべきと考える。

- ・中国地方の発展をけん引すべき拠点都市に位置付けられる広島市
- ・人口減少や少子高齢化の進展による人口構造の変化を見据えた今後の都心部における都市政策の転換

という意見をいただいている。

戸田座長

ちなみに、最も重視すべき広島市の基本計画では、この跡地は飛行場として考えられている。それがこういう形で見直しが必要になった。では、この地をどのように位置付ければよいのか。

西区では、西部流通業務地区の辺りが「拠点地区」であって、この地は入っていない。基本計画では、明示的には空港機能として位置付けられている。それをどのように我々が受け止め、そして今後の方向

性を見定めるかということが大事だ。

福田委員

大前提として、前回山田委員が指摘したように、「ウォーターフロント」がこの地域の非常に大きな特徴であるということが重要だと私も思う。

市がたたき台としている「スポーツ・レクリエーション（機能）」や「広域防災（機能）」についても、海や川が利用できるという前提だと、一般的な防災拠点とは違った発想も加えられるのではないかと。

例えば、ヘリポートだけでなく、海や川からのアクセスによって防災上機能を果たすということも考えられる。最も活用しやすい突端部分の生かし方として、ここに挙がっている案にとどまらない防災拠点になる可能性があるのではないかと。

また、レジャー・レクリエーションについては、（広島は）これだけ海に面していながら、海辺で遊べる所、川や水辺に近付ける所が少ない。そこを生かしたやり方があるのではないかと。

他方、「住宅」としての活用の可能性はないのか。これだけの土地の中に、新しい住まいの在り方を提案できる場所でもあるのではないかと。

例えば、「環境に共生した生き方」を考えたときに、この立地特性として、水が使える敷地であることとか日照が良いなど、環境を生かすのにふさわしい条件があるのではないかと感じる。「スマートな都市」のようなモデルも、可能性としては考えられるのではないかと。

いずれにしても、この土地ならではの特性を生かすという意味でいえば、今提案されている3つの方向性以外にも、もう少し他にも挙げるだけは挙がると思う。

その中で、「業務地区」が今一つピンと来ていない。ここでしかできない業務とか、ここが生かせる業務というのがどういうものか、自分としては発想しにくいという印象を持っている。

川辺・海辺であるという特性を生かすやり方を、ひとつ大きな柱にしたらどうかという提案だ。

戸田座長

確かにこの地は、川、海、都市の3つがセットになっている。

日照の話があったが、日照は良いのか。

事務局

広島湾を囲む地域については、概して日照条件に恵まれている。

福田委員

住宅をつくるかどうかは別として、「エコ・タウン」という考え方もありえるのではないかと。

「防災」や「エコ」は、今の時代では非常に重要だと思う。

中山委員

40ヘクタールという広大な土地が、都心から5キロほどの地域にあるというのはなかなかない。それをいかに活用するか。県の立場からは、一地域の振興というだけでなく、幅広く広島の中核拠点性を高めるものをここにもってきたいという希望を持っている。

そうは言いながら、都市計画との整合性なども考える必要がある。本日、関連計画を紹介してもらったが、これらは広島西飛行場をヘリポート化する前の計画であり、新たに見直して、マクロ・ミクロで考えていかなければいけないと思っている。

県としては、具体的に何をここにもってこなければならぬということがあるわけではない。

(県) 議会で「スマート・シティ」はどうかという質問を受けたことがあるが、それも1つのアイデアだと答えた。この地域で住居系をつくったときに、どういう問題があるのか。個人的見解では、他の住居系と少し隔離されているので、もしつくとすれば恐らく公共インフラに投資が要る。どういう課題があるのかも検討していく必要があるのではないかと。

松浦(靖) 委員

この地区の造成経緯を補足資料で初めて知った。飛行場が無くなったのであれば、原点に戻るという切り口もあるのではないかと。例えば、三菱重工さんであれば、ここにどのような絵を描くか。新たな雇用を生むわけではないが、間接的には安定的な雇用を確保することにつながるかもしれない。

また、「スポーツ機能」という案があるが、現在の県営総合グラウンドや(その中の)野球場は恐らくかなり古くなっていると思われる。いずれ建替えを考える時期が来たとき、全部さら地にして大規模なスタジアムや付帯施設をつくることも将来的な可能性としてはあるのでは。県営総合グラウンドの場所はアクセスも非常に良い。海岸近くに行くとどうしても渋滞という問題が出てくるので、スポーツ施設を考えるとき、跡地の区域にとらわれずもっと広い範囲で現在の(県営総合グラウンドの)場所も視野に入れて検討するのもよいのではないかと。

もう1点。国際会議場について、広島市は今後どのように(考えているのか)。現在の国際会議場は宿泊や食の機能が無く、将来的にどこかにつくるべきではないかと。国際会議場(の建物)は広くて低くてよいのでは。既に何らかの計画があるのかどうか。また無ければ、1つの案としてこの跡地に国際会議場という案も検討する余地があるのではないかと。

戸田座長

まず1点目。三菱重工との関係だが、ヒアリングのときにどの程度踏み込んだ質問をしたか。

事務局

第1回検討会の資料の説明をした上で、隣接事業者等の意向も重要なのでアンケート調査をさせていただくという説明をした。それ以上でも、それ以下でもない。

戸田座長

松浦(靖) 委員が提案されたような意見交換はされていないということなので、継続的に調整することもありうるかと思う。

2点目。県営総合グラウンドの状況はどうか。

事務局

広島県総合グラウンドの建物については、メインスタジアム、野球場、補助競技場、ラグビー場がそれぞれ配置されているが、(現在の)メインスタジアムは平成4年に全面改修している。野球場は昭和62年に全面改修した後、補修工事を施している。

戸田座長

これについて、整理を進めるというような計画は特にないのか。

事務局

現在は特に計画はない。

戸田座長

国際会議場については意見として承る。これに関する計画は、県や市にあるのか。

事務局

(市には) 宿泊を伴うような国際会議場について具体的な計画はない。ただし、以前から、出島地区におけるメッセ・コンベンション施設の計画がある。

谷村委員

商工会議所の中で、この問題を深掘りして検討している段階ではまだないが、前回の内容は報告し、今のところ、「スポーツ・レクリエーション機能」「防災機能」といった位置付けに対して、特段の異論は出ていない。

ここの立地を考えると、広島南道路が開通すれば広域から人が訪れるのに便利がよいということも考え、中国地方には他にないもの、ユニークなもの、ここにみんなに来てもらうんだというものを考えてはどうか。中枢都市としての役割という上からも(理にかなう)。

また、まとまったこれだけのもの(面積)があるのだから、周辺も含めて、ここでしかできないもの(を考えていく必要がある)。細切れにして、あれこれと詰め込むような形ではなく、ここでしか実現できないということを考えていく必要があると思う。

もう1つ。壮大なものを考えて、それが10年かかるということになっても、それまで周りに柵をして、誰も来ないままずっと置いておくということにはならない。そういう時間軸(を考慮する必要がある)。将来はこういう方向だが、それまでの間暫定でこういうことをして、人がたくさん来てもらえるようなこともできるというような、段階的な考え方というものもあるのではないか。今のは個人的な意見である。

戸田座長

1点目は、中国地方など広域的な集客を望める場所であり、ここでしかできないものをという意見。2点目は、前回の最後に私も指摘したが、この土地の特性はまとまった土地であるということであり、これを細切れにして機能を押し込むことは避けるべきという意見。もう1点は、時間軸を考慮し、長くかかってもできるところからやるといったような段階的な整備を考えるという意見をいただいた。

商工会議所においては、「新たな雇用を創出する機能」について何か議論されているか。

谷村委員

雇用についてはまだ。まだ前回の資料を報告し、今から検討を進めていくということを説明し、何かあればという段階である。今後、本日の意見も踏まえて検討し、意見を出したいと思う。

松浦(弘)委員

今、座長が前回の最後の話に触れたが、私がそれぞれの機能が必要にして十分でなければならぬのではないかと話したとき、座長は、一方で余りいろいろなものを押し込むのは望ましくないというような言い方をされた。それは、何か単一なものでまとめようという趣旨か。

戸田座長

そうではない。

松浦（弘）委員

あくまでも、種々のものを無秩序に入れるのは望ましくないという意味で理解すればよいか。

戸田座長

そうだ。

松浦（弘）委員

本日の進め方についての資料で、「都市機能の観点」については、前回の資料を見よということか。

戸田座長

そうだ。

松浦（弘）委員

都市の課題がここで解決できるのかとか、それをここで解決することが望ましいのかとか、そういう議論があるべきだと思う。それが必要にして十分という意味合いの中で、果たしてその都市の課題をここで解決できるのかというときに、解決できない機能であれば、この跡地においてはそれはもう捨て去る機能だということになる。こういうことが欲しい、望ましいという形でいろいろな意見が出てくるが、もう一度その辺りを整理した方がよいのではないか。

戸田座長

ここでしかできないこともあるが、ここでできることはないのかという、実現可能性の指摘だ。これに関連して、山田委員から意見をいただいている。事務局から紹介してほしい。

事務局

「基本的に、現存する4大未利用地に、広島市の中核拠点性としての都市機能をどのように機能分担し、立地特性に応じて適正配置していくかが極めて重要課題であると考えている。その議論を進める上で、広島市における『都市機能』の集積実績に関するデータが不十分ではないか。例えば前回提出された『主な施設の設置状況（類似都市圏との比較）』のみでなく、各機能（施設）の充足度などを計り、機能量を定量的に把握できないものか。その検証作業が跡地活用の実現可能性及び継続性の根拠となるのではないかと思う。」

という意見をいただいている。

戸田座長

機能の充足度等について、もう少し計量的に詳しく分析・検討してはどうかという意見だ。

本日は大まかな方向性の議論をいただくが、今後、その下で機能の検討をするときに、その辺りは受け止めたいと思う。松浦（弘）委員の意見もその辺りに関係すると考える。

谷村委員

橋川委員に質問。「ドーム球場」というのはサッカースタジアムのことか。

橋川委員

それもできるドーム球場だ。

谷村委員

いろいろなことができる、多目的ドームという趣旨ですね。

橋川委員

都市計画道路を是非とも実現してほしい。

アクセスが一番問題だと思う。循環するように、行き止まりにならないように、山手線のようにどこで降りても利用価値があるような、そういう計画を思っている。行き止まってそれで終わりではなく、どこでも乗入れができるような、降りられる所にはそれなりの魅力のある街づくりができるような、広大な土地なので、とにかくアクセスを考えていただきたい。

戸田座長

今「魅力」と言われたが、どのような魅力か。

橋川委員

東京ディズニーランドのような、リピーターが何回でも行きたいという、魅力ある（集客施設だ）。

戸田座長

先ほどの多目的ドームも集客がねらいということか。

橋川委員

そうだ。温泉施設などいろいろなもの。広大な土地があるので、何でもできると思う。

市や県でできないのであれば、第三セクターや外国資本も（考えられる）。市や県が融資するとか、一部の土地を売ってでも資金を捻出するとか、土地は一切売らずに今のままを使うとか。

戸田座長

その辺りは事業手法の内容に関わることなので、本日は、何をつくりたいのか、どのように進めるかという点に絞りたい。

秋山委員

三菱重工さんは、話をすればかなり柔軟に対応してもらえると思う。

今、サッカー場について議論されているが、街の真ん中と（観音）新町とでは、土地の値段が10倍以上違う。あんな（地価が）高い所にサッカー場をつくっても、例えば駐車場ひとつにしても、大変難しいことが起きるのではないか。（この跡地の方が）何をつくるにしても安くできるのではないか。

三菱さんや山陽高校さん、マリーナホップさんも、すごく良いことを書いておられる。これを、皆さんで「よろしく」と言っていけば、三菱重工さんは聞いてくれると思う。

橋川委員が言ったように、なぜこのスポーツ王国にドームがないのか不思議でかなわない。

これは済んだことだが、飛行場があるのにアクセスがバスしかない。福島町まで電車が来ているのに、なぜ電車を通さなかったのだろうか。

戸田座長

多目的ドームについて、広島市の見解はどうか。新たな市民球場との関係もあると思う。

事務局

(広島市民球場の建設経緯について説明)

西岡委員

次回に向けてどのように資料をお示ししようかと、お話を伺いながら考えていた。

広島と同規模の都市である札幌・仙台・福岡の地域性や住民性をそれぞれ知っているが、改めて広島を見ると、かなり特徴がある。あの都市にこの機能があるが広島にはないからつくった方がいいという議論は余り意味がないと思っている。

広島の特徴は、ブロックの代表都市であるということ以外に、人々の勤勉性が非常に高く、まじめでコツコツという、製造業に向けた都市だということ。逆に言うと、エンターテインメントには余り向いていないという感じがする。お祭りがたぎの福岡とはかなり差がある。福岡にある機能が広島にないからつくろうというのは余り意味がない。

広島だからこそ、あるいは広島の強さを更に強化するような、特性をより出していくような、そういう伸ばし方をする。むしろ、今広島にあるものを更に強化する、というような取組の方がよいのではないか。それが何なのか、まだ答えはないが。

他方、この地域を新たな雇用を創出する場にしていきたい、という市長の熱い思いがある。今のところ、住宅というアイデアではなく、「新たな雇用創出」という切り口で機能の1つとして柱を立てている。議論の結果として、住宅の方が良いという声が圧倒的に強いようであれば考えていかなければならないと思うが、スタート時点の機能の立て方としては、紹介した3機能としたものだ。

また、「スポーツ・レクリエーション」について、スタジアムという話も出ているが、ここの特徴は海と川に面していること。水のレジャーに特化していて、既にマリーナホップという集積があるということが非常に大きいのではないか。そういう特性をより強化するような配置をどうするかということを考えていった方が現実的なのではないか。

参考事例として、千葉・仙台・福岡における跡地開発を挙げ、過去どういものが行われてきたかを紹介させていただいたが、これらは右肩上がりの時代に計画を立て、今ようやくここまで来たものだ。

広島も人口減少社会が間もなく到来する。こういう中で、これだけの跡地をどう活用して未来の広島都市圏を駆け抜けていくような場所にするか。「身の丈開発」というか、大きなことを打ち上げるのではなく、実需に合ったものを着実に取り組んでいく、それを一步一步前に進めていくようなビジョンを描くことが大事なのではないかと思う。

戸田座長

初めに福田委員が言われた「ウォーターフロント」に戻ってきたという気がする。

ここでキーワードを整理させていただく。

まず、福田委員から、「ウォーターフロント」。海と川。水と言ってもよいと思う。そして、「防災」

の話があった。ヘリポートは空からのアクセスだが、海・川からのアクセスが防災のためにあってもよいのではないかという意味において、広域的な防災機能につながると思う。それから、大きなポイントとして「エコ」。「エコ・タウン」「スマート・シティ」という表現もあったが、そこにつながる新たな暮らし、という話があった。

中山委員からは、やはり「スマート・シティ」「エコ」という言葉が出たが、県としての方向性は必ずしも定まっていない。ヘリポートを前提にした関連計画の見直しも必要である。また、公共インフラが不足しているという課題も指摘された。

松浦（靖）委員からは、「安定的な雇用」ということ。そのために、三菱重工から提案をもらうという案、これは三菱重工とより密に調整や意見交換をすることが必要ではないかという指摘でもある。そして、「スポーツ」。県営グラウンドとの一体的な整備ということ。そして、3点目に「国際会議場」という話があったが、市においてはまだ検討はしていないが、出島のメッセ・コンベンションとの兼ね合いも留意事項であるということ。

谷村委員からは、商工会議所においては、十分な検討はこれからであるが、少なくとも「スポーツ・レクリエーション機能」、「広域防災機能」、「新たな雇用を創出する機能」、この3本の軸が大事だと認識しているということ。キーワードとして、1つは「ここでしかできないもの」をやるべきであると。そして、「分割して細切れにしない」と。これに関連して、松浦（弘）委員から質問があつて、必ずしも単一の機能ではないと。関連した機能、複合機能でも、これは十分ありえるかと思う。相乗的にまとまった大きな力になるという機能だ。それから、「段階的な整備」ということも大事であると。できることからするということだ。タイムスパンを考えて検討すべきということ。

松浦（弘）委員からは、「それが本当にここでできるのかどうか」ということを十分検討すべきであると。これに関連して、山田委員の意見も紹介した。

橋川委員からは、一番大事なものは、「アクセスの充実」、そして「魅力づくり」。魅力あるもの、例えば、ディズニーランドのような、リピーターが実現できる集客ということだ。

秋山委員が強調されたのが、三菱重工との調整が大事であること。また、「にぎわい」や「アクセス」が大事であるということを強調された。

西岡委員からは、広島地域性を踏まえて、「広島の強さをより強くする」。この強さとは何なのかということ十分に踏まえるべきということ。そして、「新たな産業・雇用創出」ということで、海・川に面しているという特性を合わせた産業、新たな産業の創生ということもあるのではないか。これは、福田委員から最初に話のあった「ウォーターフロント」に結び付いてくるわけだが、レクリエーションなり、水辺に関連したサービス業、というのもありうるかと思う。

キーワードでまとめたが、全員の発言がつながってきているのではないか。

大事なことは、ここでしかできないことは何なのか、そして、ここでできることは何なのかということ。この両面を検討するわけだが、方向性として、キーワードの中で、「スポーツ・レクリエーション機能」、「広域防災機能」、「新たな産業を創出する機能」というのは、全ての委員に異論は無かったと思う。前回の委員会において、機能配置の面から見て何が足りないかという面からアプローチしたわけだが、結果的にはこの3つの柱に落ち着きそうだ。

しかし、西岡委員が言ったように、何が本当に強みなのか、それをより強くしていく、広島の地域特性を生かしたような形で方向付けをするべきだ。それから強みを生かす、それがスポーツなのか、レジャー産業なりレクリエーションなのか。それに関連した新たな産業の創出ということにつながってくるかと思う。しかもそれが、川と海との関連の下で作られてくる。

まとめではないが、大体の方向性としていかがか。

今日はまだ、方向性を議論していただくということで、具体的なものはぼやっとしている。そこから、機能なりにブレークダウンしてゆきたい。

海と川を生かして新たな産業を創生し、雇用機会を作っていくということと、防災機能にもそれは役に立つということ。産業の中には、スポーツもあれば、レジャーとレクリエーションもある。ただし、その際には、関連の方々、特に三菱重工との密接な調整が必要である。そのような方向性で、今後検討を進めていく。

とりあえずまとめさせていただいた。意見はないか。

(発言なし)

戸田座長

よろしいか。それでは、いま私がまとめたことについて、事務局において文書化し、各委員に確認していただきたい。その後、次のステップの作業を進めることにしたいと思う。よろしいか。

(発言なし)

戸田座長

方向性は了承いただいた。全体を通じて、何か意見、質問があればいただきたい。

谷村委員

ヘリポート（の位置を）所与で考えるという話なので、空域制限について改めて説明してほしい。

また、広大な土地で非常に有効に使えるのだが、「ウォーターフロント」のマイナス面として災害がある。高潮の被害はどの程度あるのか。

事務局

（航空法による制限表面について、第1回広島西飛行場跡地活用検討会資料の7ページに沿って説明）
高潮堤防については、基本的には整備が済んでいる。ただし、「(太田川水系) 河川整備計画」では、太田川放水路側の堤防幅を拡幅する予定があるとのことである。

戸田座長

ほかに意見等がなければ、この辺りで閉めさせていただきたい。事務局から何かあれば、願います。

事務局

多くの貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

次回の会議では、本日の意見等を踏まえ、「主たる導入機能」等について意見をいただきたいと考えている。先ほどの座長から指示を受け、本日座長がまとめた内容について文書化した上で、できるだけ早く各委員に案内したい。

次回の日程については、1月下旬の開催を考えているが、改めて連絡する。

戸田座長

これをもって、第2回広島西飛行場跡地活用検討会を閉会する。ありがとうございました。